

第4章 データに基づく保健事業の展開 - 3 重症化防止プログラム

糖尿病重症化予防事業 —重症化予防へ医療機関と連携—
 (全国健康保険協会(協会けんぽ)広島支部)

○取り組みの背景および目的

糖尿病を起因とする早期腎症期(2期)、顕性腎症期(3期)、腎不全期(4期)に該当する協会けんぽ広島支部の加入者に対し、通院先の医療機関と株式会社 DPP ヘルスパートナーズの看護師・保健師が協力・連携しながら、患者自身に対して病気に関するセルフマネジメント能力を高めるプログラムを提供している。

当該プログラムを提供することによって、病気の重症化(透析への移行等)を予防し、医療費適正化と患者およびその家族の生活の質(QOL)の維持向上を図ることを目的とする。

○取り組みの内容

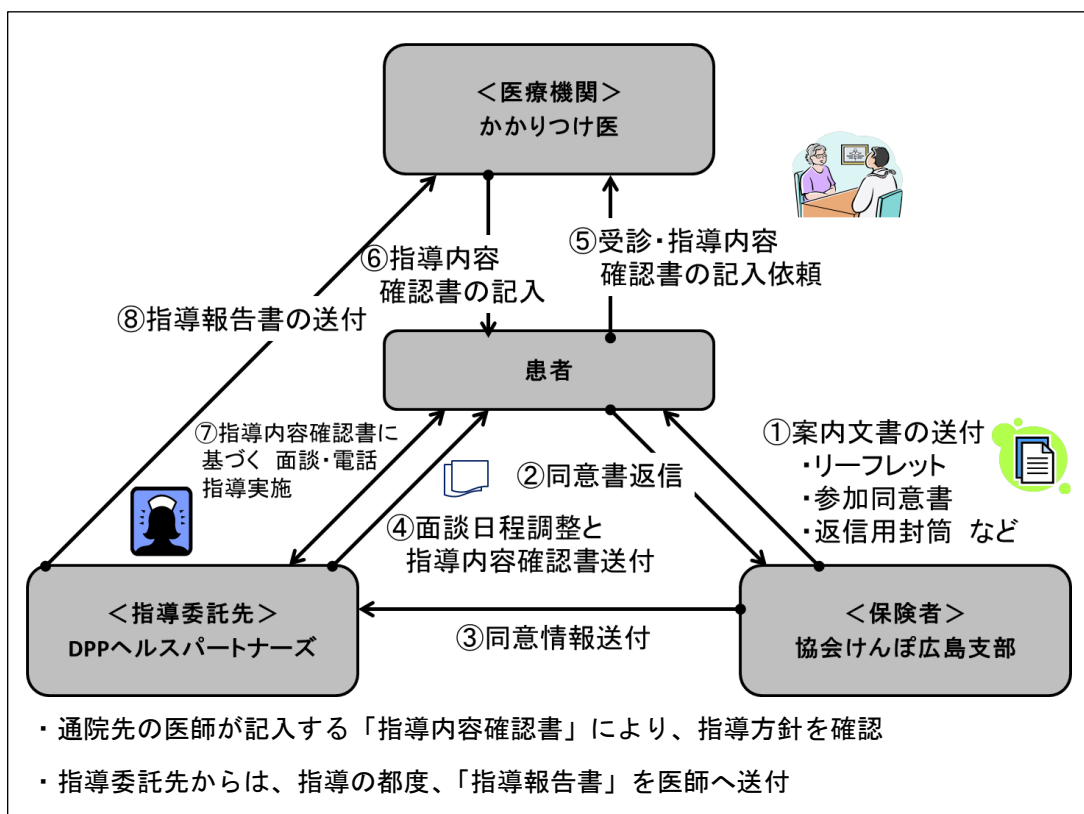


図1. 糖尿病重症化予防プログラムの流れ

取り組みの経過

取り組みの経過は表1のとおり。当初、平成23年度には、協会けんぽ広島支部のパイロット事業として開始し、その後、調査研究事業として異なる内容で発展的に追加実施した。平成24年度においても、支部独自事業として調査研究事業と同内容で継続実施した。

【事例18】

パイロット事業と調査研究事業の異なる点は、対象者を抽出する手段、協会けんぽが実施する「生活習慣病予防健診」受診者データを使用するか、レセプトデータを使用するかという点である。

表1. 取り組みの経過

	平成23年度		平成24年度
	広島支部パイロット事業	調査研究事業	
対象者の抽出元	健診受診者リスト	レセプト	レセプト
対象者	協会けんぽが被保険者向けに実施する「生活習慣病予防健診」受診者 ・eGFR 値より正確な病期判定が可能 ・健診未受診者・被扶養者は抽出不可 ・3～4期者は、通院している者が多く健診未受診のためか、抽出者が少ない	株式会社データホライゾン抽出委託（医療費グループリング技術を使用し、病名だけではなく、投薬内容・検査項目内容から病期を推定） ・健診受診の有無を問わない ⇒「被保険者・被扶養者両方を対象とできる」 「3～4期者も抽出可能」 ・参加者 eGFR 値により、抽出した病期の精度検証をしたところ、抽出時点での完全なる病期一致は5割程度であったが、抽出者の9割は2～4期に属しており、指導対象者抽出の目的は達成している	
除外条件	精神疾患・がん・認知症		がん・認知症
対象地域	広島市 呉市 廿日市市 大竹市 東広島市	広島市の一部 （中心部・沿線） 廿日市市の東部	広島市の一部 廿日市市の一部 （昨年の通知外地域） 呉市
対象者数	2期 76名 3A期 39名 3B期 10名 4期 9名 合計 134名	2期 488名 3期 330名 4期 52名 合計 870名	2期 512名 3期 214名 4期 46名 合計 772名
参加者数（率）	28名（20.9%）	92名（10.6%）	103名（13.3%）
指導完了人数（率）	21名（75.0%）	53名（57.6%）	56名（77.8%）

※24年度事業は指導継続中（25年度繰り越し）の者31名を除く

取り組みの内容

平成23年度プログラムにおいては、参加者が医師から提供を受ける「指導内容確認書」に記載

【事例18】

された eGFR 値をもとに病期を判定し、プログラム内容を決定。平成 24 年度プログラムにおいては、上記に加え、参加者からのヒアリング内容（知識・理解力等）も加味して、プログラム内容を決定（表 2）。

表 2. 糖尿病重症化予防プログラムの実施内容および回数

	期間	病期	内容
平成 23 年度	12 ヶ月プログラム	2 期	面談 1 回、電話 17 回
		3～4 期	面談 3 回、電話 15 回
平成 24 年度	6 ヶ月プログラム	2 期	面談 2 回、電話 4 回以上
		3～4 期	面談 2 回以上、電話 6 回以上

他保険者との協力・連携

同様の事業を実施している呉市と平成 25 年 3 月 28 日「健康づくりの推進に向けた包括的連携に関する協定」を締結。本プログラム実施中に対象者が保険者を異動した場合でも、保健指導を継続できるようにした。

○効果

検査値の推移

表 3. 糖尿病重症化予防プログラム参加者の検査値推移

	平成 23 年指導対象者 (12 ヶ月指導)			平成 24 年指導対象者 (6 ヶ月指導)		
	総数	維持・改善数	割合	総数	維持・改善数	割合
収縮期血圧	61 人	41 人	67.2%	56 人	41 人	73.2%
拡張期血圧	61 人	37 人	60.7%	56 人	40 人	71.4%
血清クレアチニン	47 人	24 人	51.1%	34 人	18 人	52.9%
eGFR ※1	47 人	33 人	70.2%	35 人	22 人	62.9%
HbA1c ※2	66 人	51 人	77.3%	55 人	37 人	67.3%
空腹時血糖	27 人	16 人	59.3%	26 人	13 人	50.0%

検査数値が 2 回以上判明した者を対象とする（検査項目によって総数が異なるのは検査データが指導前後（少なくとも 2 時点）で取得できない者がいるため）

※ 1 eGFR は、自然経過による進行速度よりも早く悪化しているものを悪化と考える。よって、自然経過による進行速度以内に進行が抑えられている場合、維持と判断する。

（自然経過による進行速度 第 2 期：1 年間に 6 減少、第 3 期：1 年間に 10 減少、第 4 期：1 年間に 5 減少）

※ 2 HbA1c は、0.4%以上悪化していた場合、悪化と判断する。これは測定機器によって 0.3%程度の誤差が発生することを考慮している。

【事例18】

透析移行者数

平成25年1月現在、平成23年度の本事業参加者からの透析移行者はいないが、不参加者からは6名、中断者からは1名、透析に移行した（表4）。平成24年度事業分については、現時点において未集計。

表4. 糖尿病重症化予防プログラムの透析移行者数

			平成25年1月時透析者数
平成23年度事業	パイロット事業 (134名)	<u>指導完了者 (21名)</u>	0名
		中断者 (6名)	1名
		不参加者 (107名)	2名
	調査研究事業 (870名)	<u>指導完了者 (53名)</u>	0名
		中断者 (39名)	0名
		不参加者 (778名)	4名

○費用および財源

表5. 事業経費

事業	費用
平成23年度事業（パイロット事業＋調査研究事業）	8,101,800円
平成24年度事業	6,035,400円

※平成23・24年度ともに、対象者抽出業務委託費用を含む

○事業評価

課題

- ・参加率が十数パーセントにとどまっており、参加率向上が課題となっている。
- ・指導中断となる主な理由は、「委託業者から参加者へ連絡が取れなくなる」「参加者が忙しい」「協会けんぽ広島支部の被保険者資格を喪失」などが多い。

参加率向上に向けて実施した取り組み

- ・案内文書を開封してもらえるように、ポケットティッシュを同封する等の工夫を行った。
- ・自宅への電話勧奨を行った。電話帳掲載が少ないこと、被扶養者との接触に比べて、日中勤務している被保険者とは接触しにくいという短所がある。
- ・医師から対象者への勧奨を行った。（複数の対象者を診察する医師に、対象者へのプログラム参加勧奨を依頼。）
- ・事業所保健指導訪問時に、保健師が対象者と面談しプログラム参加勧奨を行った。

【事例 18】

○全国健康保険協会（協会けんぽ）広島支部情報

- ・ 被保険者数（平成 25 年 5 月末現在）：569,457 名（男性 61.9%、女性 38.1%）（平均年齢 44.2 歳）
- ・ 加入者数（平成 25 年 5 月末現在）：1,010,890 名
- ・ 事業所数（平成 25 年 5 月末現在）：43,379 事業所（平成 25 年 3 月末現在で 10 名未満事業所が 78%）
- ・ 保険料率（平成 25 年 3 月末現在）：100.3‰